



北海道旅行 (2015)

2015年8月31日～ 札幌～稚内～洞爺湖～函館

はじめに

前年の春と夏に続けて「青春18きっぷ」で一人旅をしてから、どこへ行くのか考えるのが楽しくなっていたものの、その後は機会がなかった。この夏に、仕事が一区切りついたので「結城友菜は勇者である」の聖地である観音寺（香川）など関西方面に出かけようと考えていた。そのつもりで8月上旬の「ムーンライトながら」の指定席券を入手した。

遠方になると青春18きっぷで時間をかけるより、**夜行バス**の方が効率的な場合があることもわかってきたし、**LCC**（Low Cost Carrier、格安航空会社）で安く遠くに行けるということも知った。そこで調子に乗って**Jetstar**で北海道へ行こうと8月末の片道チケットを予約した。帰りは青春18きっぷが高速バスで帰るつもりだった。こうして考えるのも楽しい時間だ。

ただ、こしばらく不摂生なほど食べてもあまり太らないという点が気になっていたので、出かける前に健康診断を受けておくことにした。フリーランスになって一度も受けていなかった。それが7月終わりのことだ。

7月29日に健康診断を受け、「糖尿病で数値が悪い。検査結果を待たなくていいから、すぐに内科に診てもらいなさい」と言われた。翌日は、本来外来を受け付けていない曜日だったが予定を入れてもらい診てもらった。「重度の糖尿病だから、すぐに入院が必要です」健康診断が終わったら出発するつもり「青春18きっぷの旅」が流れた。



仕事場と化した病室（個室ではない）

他の都合で修正が入ったり、延期されたりして、結局年を越し、2月が終わりろうとしても、まだ片付いていないありさまだ。やれやれ。

入院後は血液検査やレントゲン、エコー診断、眼圧検査など合併症の兆候がないかを調べ、詳細な検査結果が出るまでは旅行なんてダメ、とも言われた。北海道旅行の話をしたが、見送る方がいいでしょう、ということだった。Jetstarはキャンセル不可の前提で予約したので無駄になってしまう。名義変更はできるので誰か代わりに使わないかとツイートで募集してみたが、そりゃ片道なんて要らないよね。

翌週の月曜日（8月3日）に仕事の打ち合わせがあったので、入院は5日からしてもらった。入院といっても手術するわけではないし、自宅から病院までは徒歩15分の距離なので、大げさな準備もない。糖尿病の入院には、検査や治療のほかに糖尿病がどんなものかを学ぶ教育入院という意味もあるらしいから、きっと暇だろう。

ちなみに、この週に打ち合わせした仕事は急ぎというので、液晶モニターを買って病室に持ち込んでまで終わらせたのだが、

入院中には退院まで2週間くらいかかると言われていたが、教育入院ということは覚えるべきことを覚えてしまえばいいわけだ。マジメ人間が本領を発揮するところだ。病室でのネット接続は禁止されていなかったのも、何日かで糖尿病についてプレゼンできるくらいの知識は得た。見せる機会はなかったがライトニングトークができる程度のPowerPointのスライドまで作った。糖尿病の対処法は食事療法、薬物療法、運動療法であり、運動療法として勧められたウォーキングについては外出許可の下りないうちから病院内を歩き回り、3日目以降は毎日外出許可を取ってあちこち歩き回った。おかげで8日目の12日に退院。検査の結果、合併症の兆候もなく、その後の診察も順調で、旅行してもよいと言われた。Jetstarの予約は維持されたままだ。**北海道旅行の復活だ。**

半分諦めていたので、ほとんど準備ができていなかったが、まず気付いたのは青春18きっぷでまわるには北海道は広すぎるということだった。あちこちまわるにも距離が遠くて時間がかかる上に、電車の本数が少ない。とても効率的にまわる気がしなかった。そうして調べるうちに稚内に行く高速バス（**はまなす号**）があることがわかった。夜行バスもあり、これなら宿泊費をかける代わりにもなる。それでも最初はバスは片道だけで、もう片道は青春18きっぷにしようと思っていた。2016年に留萌線（留萌～増毛間）が廃線になるとのことで、行っておきたいと思ったからだ。北海道新幹線の開通で青函トンネルを通る特例がなくなるらしいという話もあった。だが、電車を使うと予定を組むのが難しくなる。結局、往復ともにバスを使うことにした。

Jetstarで北海道に行く日付は8月31日だったが、9月5日には予定があったので戻らないといけない。青春18きっぷは5日分だが、このままでは使いきれなくなる。そもそも札幌から東京まで普通電車で帰ろうとすると、日中ずっと乗り続けても2日かかるのだ。ここで青春18きっぷを使うのは諦め、移動には特急を使うことにした。

札幌、稚内に続いてどこをまわるかについては、まず洞爺湖を考えた。「**天体のメソッド**」というアニメの舞台だ。アニメそのものはそんなに面白いとは思わなかったが、舞台としてはいい場所だった。あとは、ここを軸に札幌から函館までの間でまわり方を考えることにした。そもそも天気次第では、思うような場所に行けるのかもわからない。

もうひとつは考えたのは**レンタサイクル**の活用だ。鳥取では白兔神社や鳥取砂丘を自転車でまわった。タクシーを使うのはお金がかかるし、バスは路線検索の対象になっていない場合も多く、時刻や経路を調べるのが大変だ。自転車なら多少体力が要るだけだ。各地でレンタサイクルの場所などを調べておいた。

東京に戻るのには、夜行バスを使うことにした。北海道から直接戻る路線はないので青森から戻るバスを予約した。青春18きっぷで、あちこちまわりながらゆっくり帰るのもいいが、それはまた別の機会にしよう。いざというときのためにタクシーも調べておいた。夜行バスを使うため、日帰り温泉も調べた。自転車で走り続けたら、汗を流さずにはいられないだろう。

こうして、Jetstar、バス、特急、レンタサイクルの組み合わせで、それなりにあちこちまわれそうだ。時間が限られている割に、なかなかよいプランになったと思う。



1日目～札幌

いよいよ出発の日である。少し小雨が降っていたが、天気ばかりはしかたがない。Jetstarは成田空港から出発する。成田エクスプレスを使いたいところだが、せっかくLCCを使うのだから、もっと安い行き方がないかと調べたら、京成バスがあった。事前に予約しておけば東京から成田空港まで900円で行ける。バスは電車と違って道路の込み具合で遅れることもあるのだが心配だったが、予定時刻通りに到着した。



LCC用の第3ターミナルは、安く作られているとはいえ、やはり新しい。

Jetstarのカウンターには列ができていた。こっちはWebでチェックインを済ませていたので楽勝だぜ、と思っていたが印刷した紙を忘れてきた。おまけに、せっかくExcelで作って印刷しておいた予定表も忘れてきた。こういうのは印刷したものを使いたい性分なのだ。結局、その列に並んで窓口でチェックインしなおした。予定表はSurface 3にも入れていたので、持っていたUSBメモリに転送し、空港内にあったローソンの多機能コピー機で印刷。

持ってくるのを迷ったSurface 3は早速役に立ったが、思わぬことで時間を取られ、第3ターミナルを探索する時間がなくなってしまった。



Jetstarのチェックインカウンター



すぐ前にあったローソン（予定表は左端に見えるコピー機で印刷した）

搭乗ゲートで出発を待っているとき、ふとモバイルバッテリーのLEDライトが点いたままになっていることに気付いた。このところ歩数計アプリとGoogle Mapsのタイムライン（GPSを使って移動を追跡してくれる機能）を常用しているので、バッテリー消費量が増えているのだ。今回は、最初の2泊が高速バスなので、3日目までは落ち着いてスマホを充電する機会がない。どれだけの時間点いていたかわからないが、ちょっと心配になった。



飛行機はほぼ予定通り出発。無事に新千歳空港に到着した。この後、快速エアポートで札幌に向かうのだが、乗り換えの時間があまりない。別に指定席を予約していたわけではないが、ゆっくりしているとそれだけ札幌での時間が減ってしまうので慌てた。慌てすぎて、昼飯を空港のコンビニで買おうと思っていたのに買いそびれてしまった。

1時過ぎに札幌駅に到着。



コインロッカーに荷物を預けて自転車を借りに行く。札幌のレンタサイクルは、1日乗り放題で500円と良心的な値段だが、放置自転車のリサイクルを思わせるものだ。



近くのファミリーマートでようやく昼食。1日1800kcalというカロリー制限があるので、今回の旅では「地元らしい」食事は見送っている。



続いて大通りバスセンターで夜行バスの手続き。ところが、ここで雨が降ってきた。雨具の用意はしてきたが、曇りの予報だったのでコインロッカーにしまい込んでしまったのだ。



小雨だったし愚痴っいても仕方がないので、そのまま走り出したが、だんだんシャレにならないくらいの降りになってきた。しかたがないので屋根の付いた駐車場に退避。しばし雨宿りだ。



白石区役所～サーバント×サービス

10分ほどして小降りになってきたので再出発。たどり着いたのは札幌市白石区役所だ。



されているのは「杉並区」である。

ついでに、同じ原作者で「**WORKING!!**」というアニメもある。こちらはファミレスを舞台にした作品で、やはり札幌近辺に聖地がある。どちらも好きな作品で、つまり、今回の札幌めぐりは、この2つのアニメの聖地をめぐるのが目的なのだ。

もっとも、北海道は広い（札幌も広い）。クルマで移動する方がいいのだろうけど、そもそも免許がない。電車かバスという手も考えたが、時間を合わせるのが大変そう。というわけで、自転車でまわることにしたのだ。もちろん青春18きっぷを使っていたら、電車でまわっただろう。

ここは、アニメ「**サーバント×サービス**」のモデルと言われているところだ。原作は高津カリノのマンガで、とある区役所の保健福祉課で働く公務員を中心とした作品だ。原作者が北海道出身で、アニメに登場する外観は白石区役所そのものだった。ただし、屋内のシーンには杉並区役所が使われているとも聞いていた。実際、アニメのエンドクレジットで「協力」として記





白石区役所で使われるのは外観だけなので、中に入る必要はないかと思ったが、せっかくなので雨の中をやってきたのだ。何か「サーバント×サービス」関連のパンフレットや観光資料が置いてあるかもしれないと思い、中に入ってみた。

何もなかった。なかったが、「広聴・広報」という看板が出ていた。なんだか「サーバント×サービス」の宣伝に出てきそうな雰囲気だ。

許可をいただいて写真を撮らせてもらった(右)。その際、この写真の左側に映っている職員の方に「2階に保健福祉課がありますよ」と教えていただいた。**さすが広報!**「サーバント×サービス」のことをご存じだった。というか、「保健福祉課」が実在の部署だったとは考えていなかった。

保健福祉課でも写真を撮ろうとしたが、こちらの職員の方々にはアニメのことはまったく知られていないようで(そんなもの?)、まず総務課に許可



を取るように言われ、さらに総務課の方に付き添ってもらうことで、ようやく撮影できた(お手数おかけしました)。

別にそういう情報は見当たらないが、区役所で働いた経験があるという高津カリノさんが働いていたのは、ここなんだろうか、と思いつつ白石区役所を後にした。

平岡公園～WORKING!!

続いて向かったのは平岡公園だ。ここでは「WORKING!!」一期、最終話で小鳥遊宗太と伊波まひるがデートする場所だ。ちなみに、ここに向かう道の近くにはアニメ第三期のエンディングのモチーフとなった「虹の橋」があったようだが、このときは気付いていなかった（惜しかった）。

ところが、この平岡公園の広さが半端なかった。最初は自転車を停めて、歩いて回ろうと思っていたが、とんでもない。北側にある駐輪場から、デートの待ち合わせ場所になっている場所まですら1kmくらいありそうだった。ふたたび自転車で移動。

少しばかり公園内にも入ってみたが、あまりに広すぎるのと、ママチャリでの移動が思ったより時間がかかることが身に染みていたところだったので、これ以上歩き回るのは諦めた。



待ち合わせ場所（一期、13話）



次の目的地はロイヤルホスト江別店だが、バッテリー残量が少なくなってきたので充電しようとして気付いた。スマホの充電ケーブルを失くしたようだ。充電ケーブル（microUSB←→USBケーブル）なんて自宅に戻ればいくらでもあるが、どうしようもない。百元ショップでもあればいいのだが、どこにあるかわからない（地図で調べてみればよかったのだが）。

コンビニにあるだろうと最初に見つけたところに入ってみたが、1件目のセイコーマートにはなかった（Lightningケーブルはあったのに）。2件目のコンビニ（セブンイレブン）で見つけたので、少し高いと思ったが買った。せっかくGPSを使って経路を記録しているのに、このままバッテリー切れになっては困るからだ。その後の通り道でダイソーを見つけたのは、なんだか残念だった。

なお、平坦な道ばかりでないということもあるが、ママチャリでの移動速度はせいぜい時速10kmちょっとだった。徒歩だと時速5kmくらいだから、倍速くらいだ。3倍くらいの速度で走れるかと思って計画を立てていたが、甘かった。平岡公園からロイヤルホストまでも13kmくらいだったが、コンビニの立ち寄りもあって1時間半くらいかかった。



ロイヤルホスト江別店～WORKING!!

ここは「WORKING!!」に登場するファミレス「ワグナリア」のモデルと言われている場所だ。



白石区役所と違って、店構えとか店内のようすは、アニメの描写とはずいぶん違っていた。ロイヤルホストとのコラボ企画もあったようだが、このときはとくに何もなく店員さんもそういう設定については知らないようだった。





まだ6時前だったので少し夕食には早かったが、この日はここで食べると決めていた。メニューにはちゃんとカロリーも載っているのだが、カロリー制限に見合う選択肢は限られている。食べ終わって店を出た頃には、かなり暗くなっていた。ここから17kmくらいの道を自転車で戻らねばならない。

札幌、ふたたび

8時過ぎに、日本の三大がっかり名所と呼ばれている札幌時計台のところまで戻ってきた。できれば昼間のうちに来ておきたかったが、一度家族でも訪れたことがあるので今回は他を優先したのだ。

また、この日は高速バスで移動するため宿に泊まらない。つまり風呂に入らない。そこで、あらかじめ調べておいた日帰り温泉に行くことにした。札幌駅の一駅隣にあるその場所は、ロイヤルホストからの戻り道の途中でもあったが、着替えを含め荷物は札幌駅のロッカーにしまい込んでしまったので、取りに戻らないといけなかった。どっちにしるバスの発車時間までは十分時間があるので急ぐことはない。

少しばかり雨に降られてしまったが、温泉に到着。1時間ほど過ごして、ふたたび札幌駅に戻った。これで自転車の役目は終わりだ。駐輪場に返却して、今度は歩いてバスセンターに向かった。すでに10時をまわっている。





2日目～稚内

札幌から稚内行きのバスは「はまなす号」だけだ。座席は自由席で、うっかりトイレのすぐ近くに座ってしまった。トイレ付のバスだと時間が経つにつれて近くが臭うようになる、と聞いていたので失敗したと思ったが、トイレ利用者がほとんどいなかったのは幸いだった。

もともとバスで寝るのは苦手だが、このときはバスの走行音がうるさく振動もあって、ほとんど寝られなかった。札幌を自転車でまわった疲れもあったので寝不足は辛い。



右上の写真は5時10分頃の夜明けのようす。この後、10分ほどで稚内駅に到着した。



この日は日本最北端の地、宗谷岬に向かう。当初はレンタサイクルを利用するつもりだった。距離にして30km。時速15kmなら2時間で行けるはずだった。だが、前日の札幌では時速10kmくらいしか出せなかった。これだと3時間かかる。もちろん帰りも同じだ。海岸沿いで道は平坦かもしれないが、ちょっとリスクが高い。おとなしくバスを利用することにした。

宗谷岬

50分ほどで宗谷岬に到着した。乗客も何人かいたが、さすがに平日の朝一なのですいている。



間宮海峡で知られる間宮林蔵

そして、子供の頃に教科書で見た「日本最北端」を示すモニュメントがあった。鳥取砂丘のときにも思ったが、自分がこんなところに来ることがあるとは思いませんでした。







すいているうちに何枚か写真を撮り、7時を過ぎた頃に朝御飯を食べようと最北端食堂に行ってみる。ところが「営業中」の表示が出ているのにドアが開かない。しばらくすると、中から「もう少しで開けるから待ってて」と言われたので、まわりをぶらぶら歩く。

その間に見つけたのが右の写真の「宗谷丘陵フットパスコース」というものだ。全行程は2時間+2時間で4時間ほどかかるらしいが、「よく歩く」ことを目指す身としては、面白い選択だ。



そうこうしてる間に「最北端食堂」の暖簾が表に出てきたので中に入る。早朝だからといって朝食らしいメニューがあるわけじゃなかった。豚丼と注文。メニューにカロリーが載っているわけでもないし、この際、カロリー制限のことは気にしない。



食事を終え、とりあえず坂の上に登ってみた。そこは、ちょっとした公園のようになっていて、モニュメントや像などがあつた。この海沿いも含めた全体で「宗谷岬公園」というらしい。



祈りの塔



子育て平和の鐘（左）と世界平和の鐘（右）



あけぼの像

まだ7時前という早い時間だし、バスに乗っていた人はどこに消えたのだろうかというくらい人はいなかったが、駐車場の近くに鹿児島かどこか（←県名を聞いたけど忘れた）遠くからクルマで来ているという2人組の男の人たちがいた。例によって一緒に写真を撮ってあげたが、ひとり足が不自由なようだった。そのときはその人が運転していたようだが、「こいつとはとても仲が悪いんですよ」という2人は、とても仲が良さそうなのが印象的だった。

さらに登っていくと、風車をかたどったお土産屋があった。だが、まだ早い時間なので開いていない。この先を進むのが、さきほど見たフットパスコースのコースだ。



すばらしく天気がよく、歩くにはうってつけだったが、4時間は長い。少し迷ったが、いったん坂を下りてバス停近くまで戻った。土産屋で「最北端の地到達証明書」を買ってみた。



さてどうするか。時間が早いせいもあるだろうけれど、まわりをみまわしても、とくにすることがない。何もなければいけないけれど、たいていバス（かクルマ）で行くようなところだ。せっかくここまで来たのだから、フットパスコースを行ってみよう。というか、こんなことなら戻ってくるんじゃないかった。



進んでいくのは、ほんとうに田舎の山道だ。だが、いい選択だった。札幌の方は天気が下り坂とも聞いていたが、さすがに広い北海道だけあって、まったく違う良い天気だった。それに最北端というだけあって、たいして暑くもない。クルマもほとんど通らない。少しばかり坂道が続くことはあるが、ペットボトルは用意しているし、とにかく歩くだけだ。



ごくたまにフットパスコースの案内版がある。もちろんスマートフォンでマップを見ながら歩いているので、自分が位置はわかっているのだが、やはり案内版を見かけると安心する。もう少し、あちこちに置いてほしいものだ。



お土産屋を出たのが8時半頃で、この写真のところで9時半くらい。かなりハイペースで歩けるとのことだ。この分だと、4時間どころか3時間もかからずに到着できそうだ。ちょうど、この場所を過ぎたあたりで走っている人を見かけた。ときどき止まって写真を撮っているのだから、時間を測っているということもなさそうだ。ここでもまた写真を撮り合った。





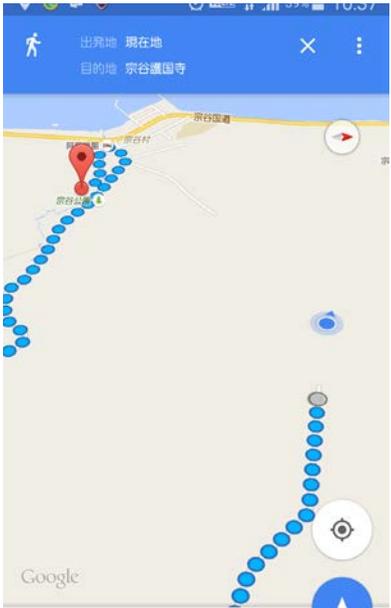
しばらくするとたくさんの風車が見えてきた。宗谷岬へ行くバスからも小さく見えていたが、宗谷ウインドファームというらしい。遠くからでも大きな風車だとわかる。近寄ってみたいが、立ち入り禁止で入れない。さらに進むとショートコースのスタート地点があった。と言っても、まわりにバス停らしきものが見当たらない。ショートコースを進む入って、ここまで何で来るのだろう。



道なりにだいぶ進んだところで気付いたが、Google Mapsの示す道が途切れている。「行きどまり?どこかで間違えた?」と思って戻ってみたが、よく見てみると正しい道として示されているのは、さきほど立ち入り禁止だった道だ。Google Mapsに示されなくらい細い道なのかもしれないと思って、ふたたび先に進んだ。

道はあった。下の画面は「ないはずの道」を進んでいる途中にキャブチャしたもので、右下の写真は、その近くの様子だ。Google Mapsは、ときどき「こんなあぜ道を通らせるのか」と思うことがあるが、今回は逆だった。

このまま海岸沿いまで行けば、バス停があるはずだ。ただ、そこのバス停の名前がわからず、時刻表も調べられなかったので、そこでどう過ごすかが悩みどころだった。



54分 (4.6km)

フットパスの終了地点に着いたのは11時頃だ。案内板には全行程4時間とあったが、かなりゆっくり歩くことを想定しているのだろう。かかったのは2時間半くらいだ。

バス停の時刻表を見ると、ここから次の稚内行きのバスは12時50分だ。まだ2時間近くもある。反対側の宗谷岬行きの時間を見ると、次は11時43分だ。つまり宗谷岬に戻っても、同じバスで稚内に行けるということだ。

まわりに時間をつぶせそうなところもないので、ふたたび宗谷岬に戻ることにした。やれやれ。

ちょうど近くに宗谷郵便局があった。「ここが最北端の郵便局か！」と思い、消印を押してもらうことにした。封筒も何も持っていなかったが、普通のハガキを買えばいい、と郵便局の人に教えられた。そりゃそうだ。



ただ、これを書くために調べてわかったが、「宗谷郵便局」は最北端の郵便局ではなかった。それは「宗谷岬郵便局」で別の場所にあった。消印には宗谷岬の絵が描いてあるんだが。



近くにお寺もあったが、観光という感じではなく、宗谷公園まで行くとバスの時間に戻れないかもしれない。次のバス停まで歩いてみようかとも思ったが、距離がわからないし、たぶん相当長いのでバスに追い抜かれたらまずい。

結局、あてもなくぶらぶらしていたら、バスがやってきた。





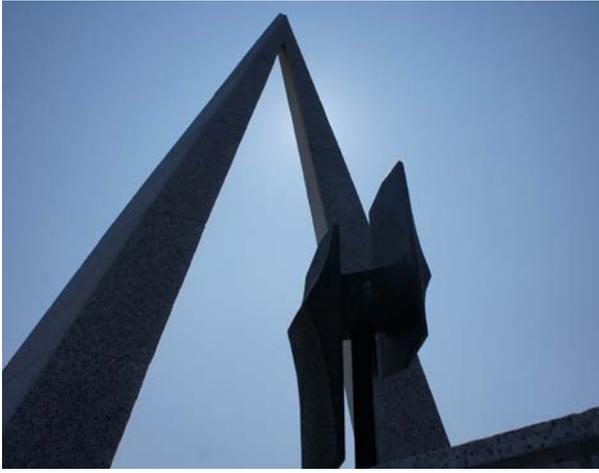
ふたたび宗谷岬に戻ってきた。ちょうど12時を過ぎた頃で、稚内行きのバスには40分ほど時間がある。

昼御飯を食べようかと思ったが、最北端食堂の隣の店はお休みだった。残念。朝食食べた最北端食堂でもいいが、朝と昼でメニューが同じだ。坂の上にはラーメン屋があった気もしたが、これもまた芸がないので諦めた。

早朝には開いていなかった坂上の展望室に行ってみた。そんなに高さがないせいか、意外にどうという眺めではなかった。

やはり早朝には開いていなかった別の土産物屋（下の写真）にも入ってみた。こちらは、また別の「日本最北端到達証明」があったので買ってみた。まあ、証明書があつてどうというものでもないが、これくらいだと荷物がかさ張らなくて済むのがいい。

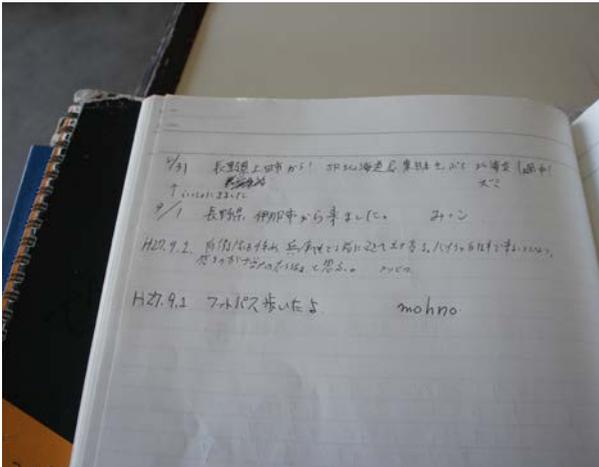




もう一度、最北端のモニュメントの方に行く。朝よりも人は増えたが、平日でもあり混雑はしていない。遠くに見えているのがサハリン（樺太）らしい。北方四島はもう少し西だったか。昔から地理は苦手だったが「日本最北端」というとどうしても択捉を考えてしまう。

少し歩き回った後、バス停の近くにある待合室に入ると巡礼ノートがあった（別に「巡礼」じゃないか）。何も思いつかず、少しだけメモ書き。そうこうしているうちに帰りのバスがやってきた。

日本最北端まで来てしたことと言えば、長々と歩いただけだったけれど、なかなか思い深い場所になった。前日の札幌に比べて晴天だったのが何よりよかった。また、改めて来る機会があるだろうか。



ノシャップ岬へ

往路と同じく50分ほどバスに揺られて、ふたたび稚内に戻る。

ふとホームの方を覗くと特急が停まっている。せっかくだからと入場券を買って入ってみた。この入場券も最北端の駅「稚内駅」というお土産代わりになっている。入場券に写っているのはスーパー宗谷号だが、背後の特急はサロベツ号だ。



あちこち写真を撮ったが、さすがにお腹がすいたので構内のカフェで昼食をとる。カロリーは抑え気味。



小休止して、ふたたび出発。もともとノシャップ岬へも自転車で行くつもりだったので少し迷ったが、もう3時間近い。レンタサイクル店は6時に閉まるので時間もないし、何しろ日没が6時過ぎなのだ。改めて駅まで戻って日没までにバスでノシャップ岬に行くというのは、それはそれで面倒だ。宗谷岬で散々歩いたけれど、この後も再び歩くことにした。

駅でもらった徒歩コース用の観光パンフレットを見て、まず氷雪の門という場所に行ってみることにした。地図上では近そうに見えたのだが、けっこうな上り坂と階段だった。その分、見晴らしはよかったが、この後ノシャップ岬まで歩くことを思うと、ちょっと想定外の労力だった。そこそこ人はいしたが、みんなクルマかバスで来るんだろうな。



氷雪の門から坂道を下り、今度は海岸沿いにノシャップ岬まで歩く。だいたい4kmちょっとの道程だ。途中で目を引いたのが昆布の日干しだ。かなりデカイ昆布だな、と思っていたら、ちょうど干した昆布を集めている人たちがいた。地域的にそうかと思ったが「利尻昆布」なのだそうだ。もちろん利尻島で採れるものがホンモノなのかもしれないが、分類としてはそうなるのだろう。



後で調べてみたら利尻島の昆布は最上級品で京都の料亭に買われてしまい、次が礼文島、その次が稚内産ということだった。その場で「売ってもらえませんか？」と聞きたいところだったが、なんとなく気が引けた。そもそも相場もわからなかった。結局、ノシャップ岬の土産物屋で買って帰ったのだが、お正月に妻が昆布巻きに使ってみたら「けっこうゴワゴワだった」そうだ。



昆布に気を取られながらも1時間ほどでノシャップ岬に到着。意外に人はまばらだった。



ここで写真を撮り合った一人は台湾から来ていて、レンタカーで日本をまわる旅をしているとのことだった。日本に留学したこともあるそうで、少しだけ日本語も通じた。私が稚内駅から歩いてきて、この後も歩いてまわるつもりだという話をしたら驚いて「それは大変だろう。クルマに乗せてあげるよ」と言ってくれた。「好きで歩いてるんだよ」と答えたら笑っていた。



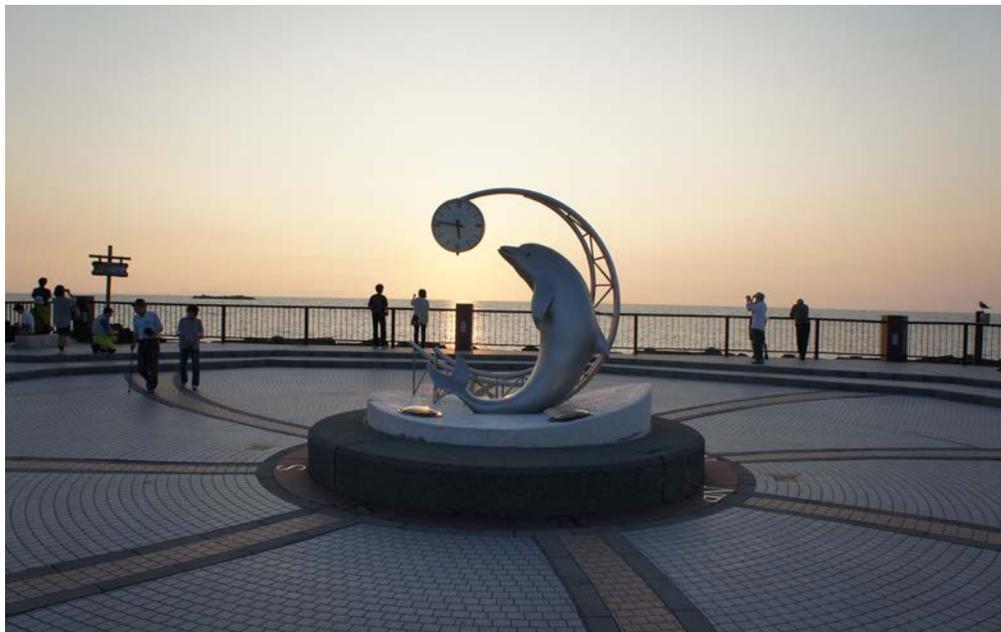
まだ4時半をまわったところだが、近くにあったノシャップ寒流水族館も閉館したところで、手持無沙汰になってしまった。



地図を見るとノシャップ公園というのが近くにあるので、行って見たが、だだっ広だけで特別どうと言うことはなさそうだ。遠回りしてノシャップ岬に戻った。



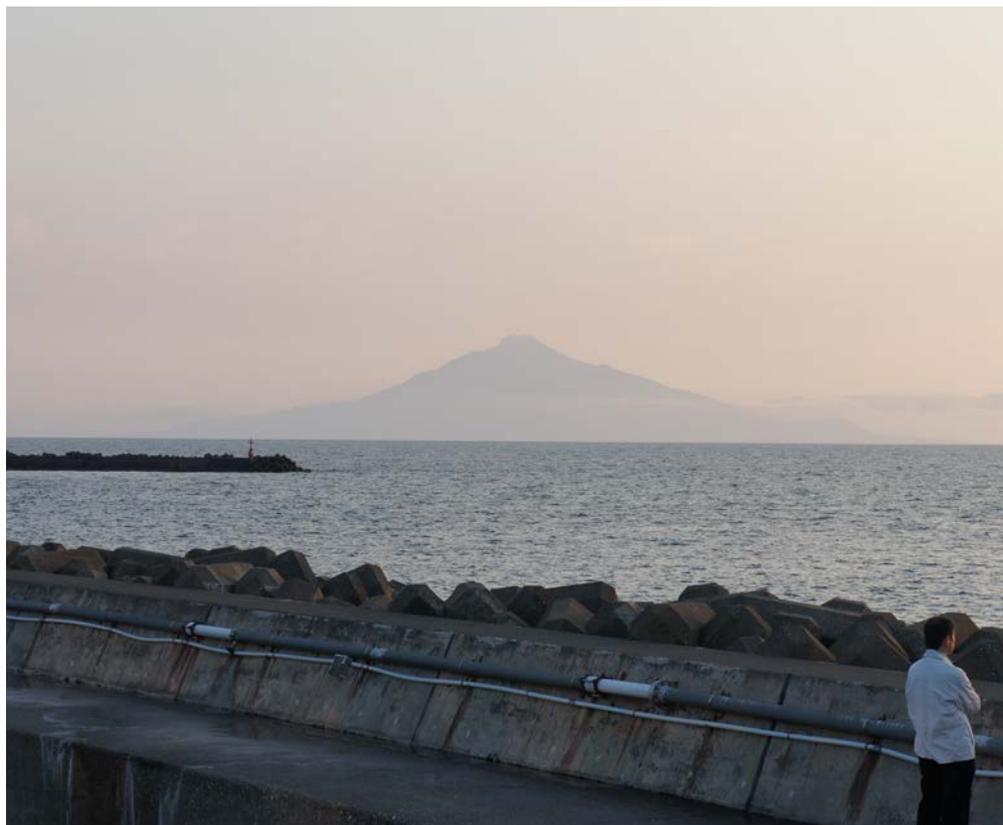
日没が近くなってきたので、さっきよりも人が増えてきた。イルカと日没を重ねて撮ろうと三脚を構えていた人がガッカリしていたようだ。でも、あなたの公園ってわけじゃないしね。



ここでも写真を撮り合う。観光名所だから、撮ってあげるのは、かなり喜ばれる。背後に見えているのは利尻山だ。











稚内温泉童夢

ノシャップ岬を後にし、この日の最後の目的地が日本最北端の温泉、童夢に向かう。3kmちょっとの距離があるのだが、日が沈んだ後なので、さっきより暗い。途中で鹿を見かけた。



途中で見かけた野生の鹿



7時過ぎに温泉に到着。



温泉の前にまず夕食（食事コーナーが8時閉店なので）

しばらく温泉につかった後、休憩室のリクライニングシートで一休み。稚内駅に戻る最終バスまでは、まだ時間がある。と思っていたらリクライニングシートが気持ちよくてうっかり寝てしまいそうになった。そして稚内駅への最終バスに乗る。終点まで乗客は私一人だった。



稚内駅でしばらく時間があつたので、ぶらぶら歩き、この日の歩数が5万歩を超えた。とにかくよく歩いた。札幌行きの夜行バスが出発するまでの時間は待合室で過ごす。

札幌に帰るバスは、往路に比べて随分乗客が少なかった。ゆっくりできるが、2泊続けての夜行バスでバッテリーを充電する機会がなく、少し不安になっていた。

3日目～洞爺

夜行バスは5時40分頃に札幌駅に到着。次はスーパー北斗で西に向かうのだが、出発まで1時間くらいしかない。24時間営業のマクドナルドでもあれば朝食と充電の両方が解決すると思ったのだが、あると思って行って見たところはオープン前だった。こんなことならコンビニの前を通った時に何か買っておけばよかったのだが、時すでに遅し。そのまま電車に乗る。



6時36分発函館行きのスーパー北斗



車内で買った朝食

せっかくだから車内で寝ていたかったが、そんなに落ち着いては寝られなかった。2時間ほどで洞爺駅に到着。すぐに表に出れば洞爺湖温泉までのバスに乗れたのだが、駅であちこち写真を撮っている間に出発してしまつたらしい。次のバスまで1時間弱もある。しかも雨。やれやれ。



2008年のサミット開催地でもある

雨で歩き回ることもできず無駄に時間をつぶして、ようやく到着したバスに乗って洞爺湖温泉に向かう。かなりの雨が降っている。そして到着して気付いた。「傘がない！」

どうやらバスの中に置き忘れてしまったようだ。バスターミナルの窓口で尋ねたら、今到着したバスは近くの車庫に戻っているはずだということなので行ってみることにした。

もちろん、かなりの雨が降っている。札幌ではしまい込んで使わなかったレインコート（というより雨合羽）が役に立った。近くといっても、何百メートルかは離れていたが、やっぱりバスの中に置き忘れていた。やれやれ。



もともと洞爺湖でも自転車をかりて走り回る予定だった。少しくらいの雨ならレインコートを着てでも自転車を遣おうと思っていたが、それどころじゃない雨だ。レンタサイクルもシャッターを下ろしているくらいだった。後で聞いたが、それでもこの日自転車を借りた人がいたらしい。何かの調査だったようだ。

洞爺湖温泉

この日は安い旅館を予約していた。湖からは遠いが、どうせ泊まるだけのところだ。もちろんネットカフェなどないし、あってもこの日は選ばなかっただろう。

まだチェックインできる時間ではないが、雨の中で荷物を持って歩くのは大変なので、旅館に頼んでチェックイン前に荷物だけ預かってもらった。これは大変助かった。

身軽になったとはいえ、かなりの雨だ。少しぐらいの雨ならレインコートか傘でなんとかなると思っていたが、想定外の悪天候だった。

そこで洞爺湖の遊覧船に乗ってみることにした。もともと、この季節は毎晩花火大会をやっている、夜は花火を鑑賞する遊覧船が出ているのでそれに乗るつもりだった。ところが旅館の人が「遊覧船に乗ってしまうと花火の音が湖に消えてしまい迫力がなくなるので、湖岸で見た方がいい」と教えてくれたのだ。







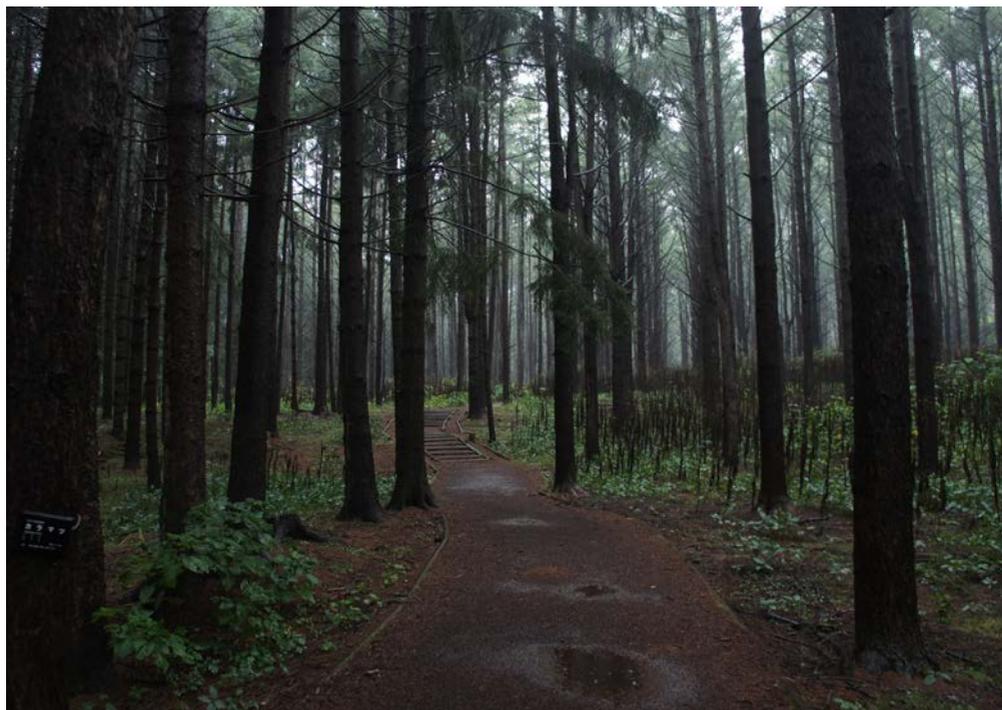
雨の平日なので遊覧船はすいていたが、貸し切り状態でもなかった。霧の摩周湖ならぬ、雨の洞爺湖。

湖の真ん中には中島があり、ここで下船しなければ50分程度の運航だ。だが、他にすることもないので下船した。

雨なので博物館でも見物するかと思ったが、島内を20~30分でまわれるフットパスコースがあった。遊覧船は30分ごとに出発しているので、私の足ならきっと20分ほどでまわってちょうどよいだろうと思い、雨の中を歩いてみることにした。

ところがフットパスコースの入り口がわからない。うっかり行き過ぎてしまったらしく大幅に時間をロス。なんとか早歩きで進んだが、慌てていたせいで今度は出口を歩き過ぎてしまい、ここでもタイムロス。結局、間に合わなかった。そもそも島の中を歩いたのにあまり景色を見ていなかった。







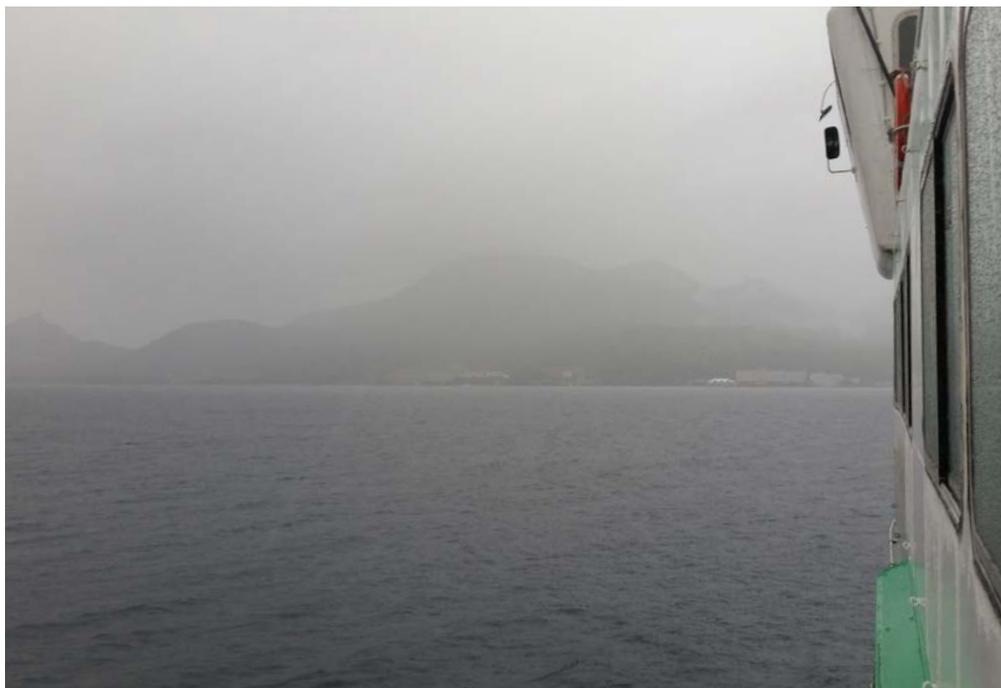
はからずも次の出発まで時間ができたので、島内のお食事処で昼飯。「ジングスカン」というノボりに少しそそられたが、2人前からだというので断念。いや、そもそもカロリー的に問題はあるのだが。

たいして時間があるわけでもないのに、店を出て、そのまま遊覧船乗り場に向かう。洞爺湖の遊覧船は30分ごとに2つの船が交互に運航しているので、30分前だったら別の船だった。

「森林博物館」であと30分時間をつぶすことも考えたが、ここで何を見ても忘れてしまいそうな気がした。来たときと同じ船に乗る。

そしてこのとき、デジカメの録画ボタンが押されていたことに気付いた。「しまった！」映像は削除すればよいがバッテリーがなくなりかけていたのだ。モバイルバッテリーでは充電できないタイプなのだ。充電のために旅館に戻るには、まだ早い。万策尽きて、この後しばらくはスマートフォンで撮影するしかなかった。





中島もすぐに霧でみえなくなる



遊覧船から見た洞爺湖温泉街、奥にうっすら見えているのが昭和南山

温泉街に戻ってきたのはいいが、相変わらず強い雨が降っている。気象情報によれば、台風ではないが近年まれに見る豪雨ということだった。

どこに行く当てもないので、バスターミナルの方に戻ることにした。その2階には観光情報センターがあるはずだった。

途中で「白いおしるこ」という看板を見つけた。地元の名物らしい。子供の頃、母が夏に作ってくれた「ぜんざい」（関東で言う「おしるこ」）を思い出した。

ぜんざいは大好物だったのだが、あるとき家の蠅帳にぜんざい（らしきもの）を見つけて食べたのだ。それは白くて少し変わった味だった。後で母が「食べないうちにカビちゃったじゃない」と言って、その白いものがカビだと知ったのだった。オエー！





観光情報センターはバスターミナルの2階にあるのだが、なんと屋内から通じる階段がなかった。この雨の中、外をまわってか。

中に入ると、左側のモニターに「天体のメソッド」の映像が映し出されていた。そう、これを見に来たのだ。この雨では天文台にもいけないが、せめてここに来られてよかった。

アニメ自体は、絶賛するような感動作というわけでもないのだが、湖を舞台にした設定は「聖地巡礼」心をくすぐるものだった。アニメに登場するキャラクターも色々あった。

2010年には「マンガ・アニメフェスタ」というイベントも開催されていたらしい。いや、後で調べたら毎年やっているらしい。この年も10月17日にやっていたらしい。2016年は6月25～26日の2日間もやるそうだ。知っていたところで、その日を狙って計画を立てたりはしなかっただろうが、青春18きっぷを使わない以上、日程が縛られる必要もなかった。





この建物の3階には、2008年に開催されたサミットを記念する「洞爺湖サミット記念館」もある。当時は福田首相だったか。メルケル首相は任期長いね。隣には「ジオパーク」も併設されていて入ってみたが、まあ、どうということもない。

チェックインできる2時近くになったので観光情報センターを出る。雨は降り続いており、マンホールからは水があふれていた。向かいにあるレンタサイクル店は、やはりシャッターが閉まっている。

旅館にチェックインしたときに雨で大変だったという話をしていたら、旅館の人が「うちも大変なのよ。**雨が降るとすぐ雨漏りしちゃうの**」と言っていたのが忘れられない。どんなさびれた旅館だよ。もっとも、実際に雨漏りするところは見たわけではない。

部屋は和室で意外に広かった。これで、ようやく充電ができる。



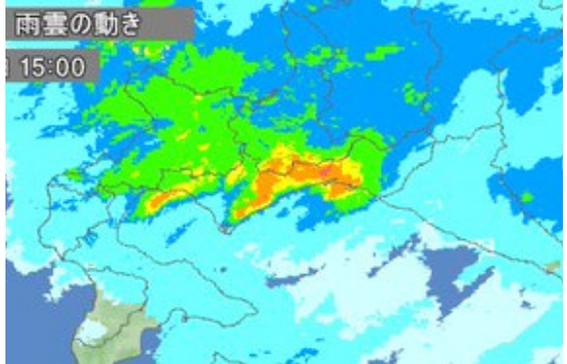
バッテリーの充電中は外に出ないが、どうせ雨なので、しばらく部屋にいるしかなかった。予定では、この日に洞爺湖をまわって、翌日は朝から西に向かうつもりだった。事前に宿泊を予約していたのはこの日だけで、函館まで行くか途中の温泉地にでも立ち寄るかは決めていなかったが、この日の予定をそのまま翌日にまわすしかなかった。

毎晩やっている花火大会はよほどのことがない限り、雨でも決行するとのことだった。観光で成り立っていて宿泊施設も多いから、ちょっとやそっとじゃ中止にできないだろう。私も先に書いた通り、最初は花火を見るための夜の遊覧船に乗ろうと思っていたのを、旅館の人のアドバイスにしたがってやめた経緯があるから、もちろん、その方がありがたい。

ただ、予報ではもう雨も弱まってよい頃で、夕方には曇りになるはずだったのだが、台風が来てるのか？というくらいの暴風雨になっていた。

どうしようもないので、旅館の温泉に入ることにした(部屋風呂はない)。このとき、ちょっと不思議な現象があった。湯船から少しずつお湯があふれてチョロチョロと排水口に流れる「ごおー」という音に混じって、どこからか喋り声が聞こえてくるのだ。いや、何を喋っているのかわからないし、そもそも喋り声なのかどうかもわからない感じだった。ラジオのようでもあるが、はっきり聞き取れなかった。

ふと排水口をふさげば音源がわかるかと思って足でふさぐと、水が流れなくなって音もしなくなった。もしかして、お喋りパイオリンみたいに排水口に流れる音が人の喋り声のように聞こえていただけなんだろうか。耳を澄ませても何も聞こえなかった。排水口をふさぐのをやめると、また何か聞こえてくる。でも、人工合成音っぽいだけで言葉が判別できない。かつて「MOON」というゲームがあって、喋り声のように聞こえる何でもない音があったのを思い出した。おかしなものだと思った瞬間、音楽とともに女の子が歌う声が聞こえてきた。やっぱりラジオじゃないか！



ラジオがどこから流れているかは分からずじまだった。温泉から出た頃には、だいぶ雨も弱まっていたが、このまま雨雲は通り過ぎていくのかわからない。まだ風は強い。

外出したくなる天気ではないが、このまま部屋に引きこもっていてもしかならないので、外に出ることにした。少し雨粒は飛んでいたが、雨上がりのような気持ちよさだった。ただし、スニーカーはすっかりグショグショになっていた。

ふたたび観光案内所まで行って見たが、もう閉まっていた。そのまま洞爺湖の湖畔まで行ってみると、さっきは霧でよく見えなかった中島がよく見えた。けっこう大きかった。



雨もほとんど上がったので、しばらく歩いてみた。



だんだん日も暮れて、7時をまわる頃にはだいぶ暗くなってきたのだが、花火があがるのは8時45分からだ。

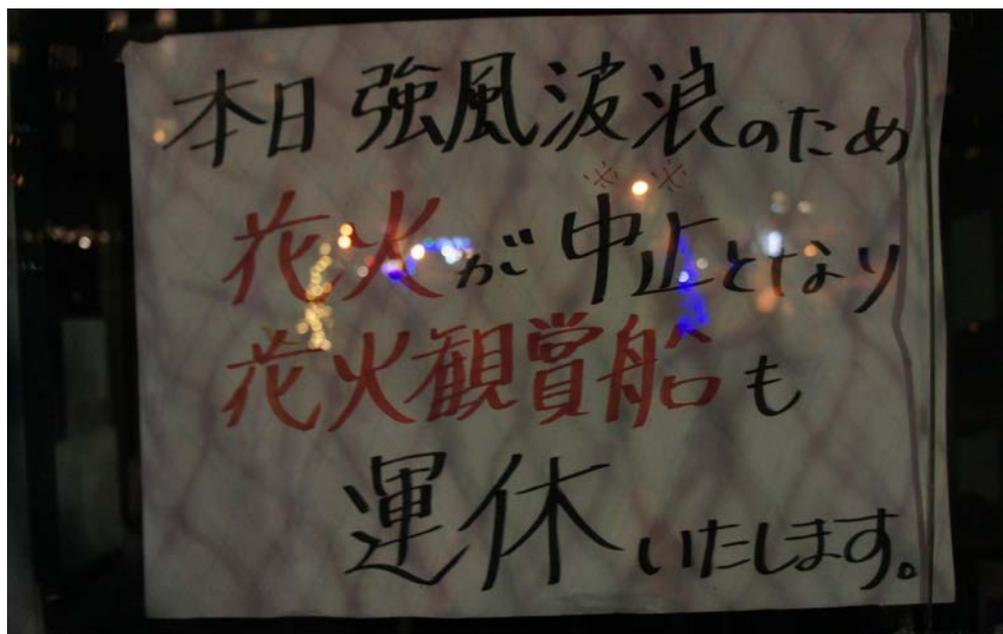
花火の前にどこかで晩御飯を食べておこうと思ったが、あまりこれといったレストランがない。いや、なくはないのだが、やはりカロリーが気になっていた。



結局、コンビニに立ち寄って弁当を買うことにした。北海道に来てからお世話になっている「セイコーマート」だ。

部屋に戻って弁当を食べた後、花火の時間に湖畔に向かったが、なんと強風のために中止になっていた。もう風もおさまり穏やかになっていたが、遅かったようだ。

そのまま少し歩き回ったが、とくにすることもなく旅館に戻ってもう一度温泉に入った。この日は運がなかったと諦めるしかない。



4日目～洞爺湖めぐり

前日が雨で予定通りいかなかったなので、この日に挽回しようと6時前に起床。前日の日中は暴風雨だったので、外を眺めることすら考えもしなかったが、洞爺湖も中島も見えた。



日課となっている血糖値検査などしながら30分ほどして出かけようと思ったら、また雨雲が近づいているらしいので、この日の計画を見直すために少し時間をつぶす。

とはいえ、ずっと部屋にこもっているのはもったいないので、思い切って出かけることにした。雨が降っているわけではない。

昨日聞いてはいたが、朝はフロントに誰もいなくて、部屋の鍵を鍋に放り込んで勝手に出ていけばチェックアウト。なんだか、すごい。





ふたたび観光案内所に行き、いつものようにロッカーに荷物を預ける。まだ案内所は開いていないが、ロッカーのある場所には入ることができた。

レンタサイクル店は8時半オープンだが、まだ1時間以上ある。「事前に電話してくれれば早い時間から開けますよ」とは聞いていたけれど、朝御飯もまだなのでコンビニでサンドイッチを買いつつ湖畔に向かった。

ベンチで朝御飯。例によって写真を撮り合ったりした後、レンタルサイクル店に連絡して、少し早めに開けてもらうことにした。

シャッターを開けるのに少し時間はかかったが8時すぎに自転車を借りることができた。レンタル料は1日貸切で2000円。札幌の500円を思うと高いが、あれは放置自転車のリサイクルと思うようなものだった。これはギアチェンジができる。電動自転車もあったが、こちらは1日4000円なので見送った。





さっそく洞爺湖沿いの道を西向き(左回り)に走る。ぐるっとまわった最後に天文台へ行こうと思っていたためだ。自転車にギアがあるのは思いのほか助かった。



ずっと、こういうサイクリングロードが続くのかと思ったが、そんなことはなかった



湖や中島がよく見える場所もあれば、そうでないところも

湖畔を少し離れた道を行くと「天体のメソッド」に登場するサイロ展望台があるのだが、今回は見送ることにした。時間がかかるというだけでなく、長い上り坂があって大変そうだったからだ。



途中で見つけた野菜の無人販売所（トマト2個で100円）



中島の見える角度も変わる

写真を撮るために立ち止まったりしたものの1時間ほど走って、曙公園というキャンプ場に行ってきました。



ところどころにいろんな形のモニュメントがある



キャンプ場



平日なので、あまり人はいない



奥に見えるのは、この日キャンプしていた人たち

さらに進んで「天体のメソッド」3話に登場する浮見堂公園に着いた。この3話はオリエンテering回として、いろんな場所が登場する。



厩戸王（聖徳太子）が祀られているという浮見堂



このモニュメントも出てくる

聖地巡礼として写真を撮るのは楽しいのだが、やたらとシャッターを押していると、当然、それだけ時間がかかる。洞爺湖一周でだいたい36kmくらい。時速12kmで休みなく走って3時間だが、この場で写真を撮るだけで20分くらいかかっていた。このペースだと一周するのに4時間くらいかかりそうだ。この後の予定が決まっているわけじゃないから慌てることもないのだが。





道の駅ならぬ水野駅（この奥も「聖地」だったが、うっかり入らなかった）



この自然体験ハウスにも少し立ち寄ったが通り抜けできないので、すぐに戻った



自転車で走り始めて2時間半くらい経った頃（この後の坂が少し大変だった）

走り始めて約3時間、洞爺湖の4分の3くらいまわったところに「森と木の里センター」への上り坂があった。この先が、「天体のメソッド」の最重要聖地である天文台だ。



森と木の里センターへ行く登り坂は自転車を押していく





登り坂はきついので、自転車は押していく。途中に自転車置き場があったので、そこに駐輪して、あとは歩いて登る。大変だが、それだけ見晴らしも良くなる。20分ほどで「森と木の里センター」の入り口に着いた。

ここには宿泊施設もあり、実はいったん予約したのだが、温泉街から少し距離があるのでやめたのだった。結果論だが前日の雨を思うとやめてよかった。事前に申し込むとボランティアの人が天文台を観測させてくれるとも聞いていたが、問い合わせたら休日だけだった。これは残念だった。

天文台に隣接しているのが宿泊施設だが、さらに奥にもバンガローがあった。ただし、平日でもあり、この日は人の気配はなかった。





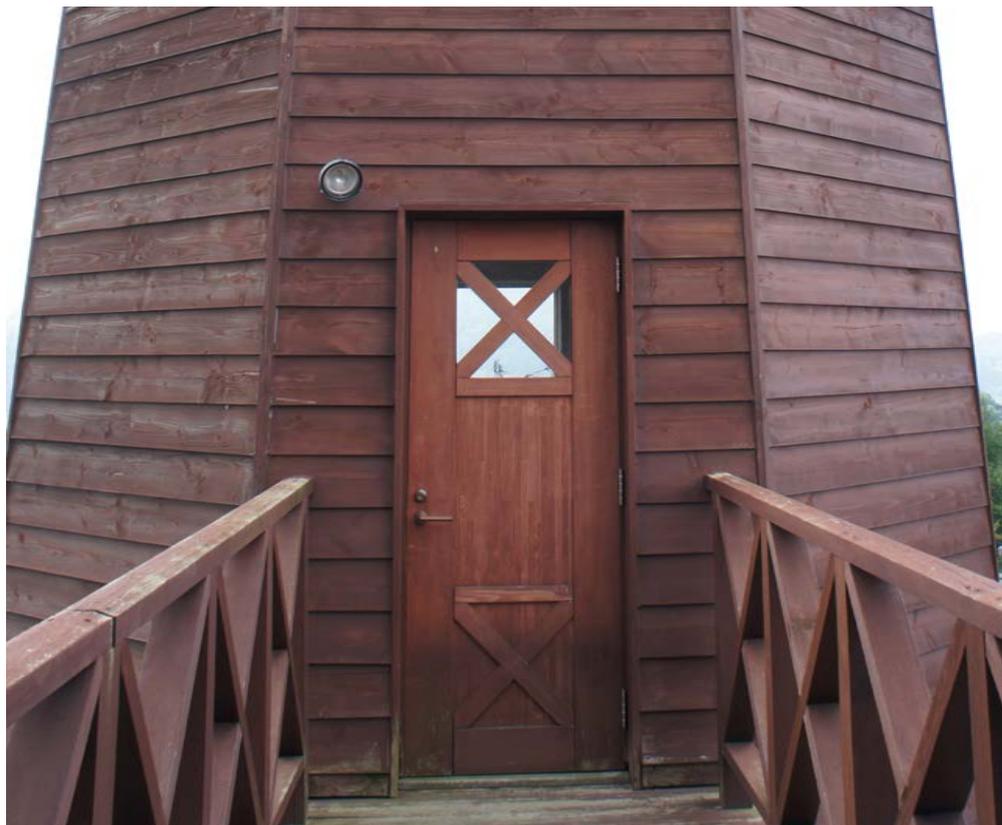


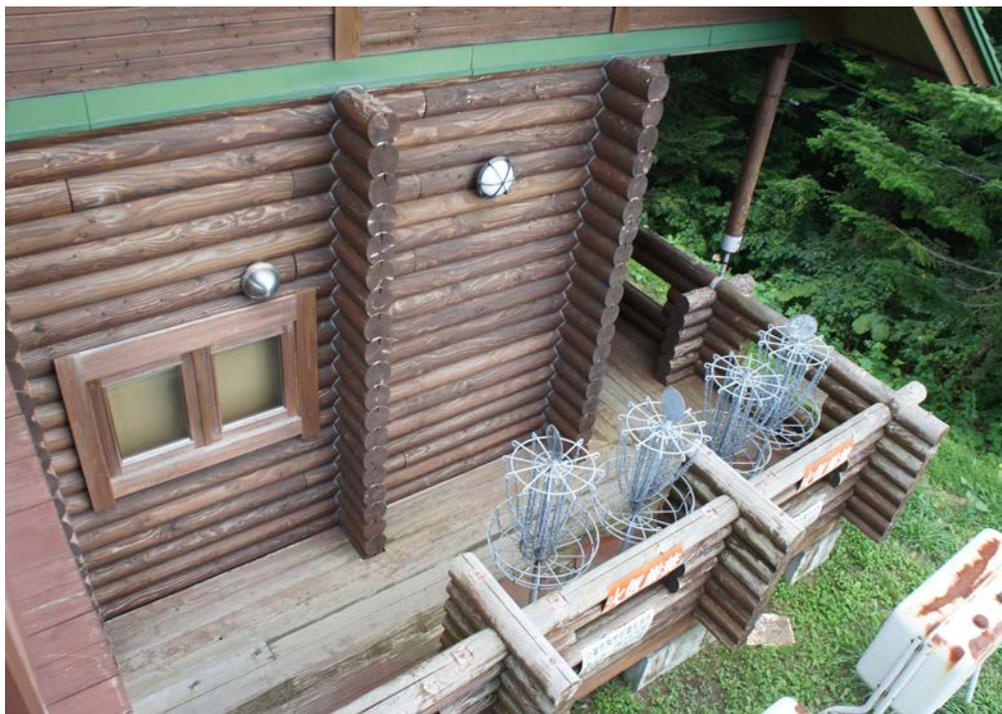
到着したのが11時40分頃で、20分ほど写真を撮りまくっていた。途中で店らしい店がなかったのでどうしようもなかったが、弁当を持ってきていれば、ここで昼御飯を食べることができただろう。

無人販売所で買ったトマトは自転車の前カゴに入れている間に、ずいぶんボコボコになってしまったが、せっかくなので、ここで食べることにした。

ようやくたどり着いた場所ではあるものの、見て回る以外にすることもないので、帰ろうと思ったところでサイレンが鳴った。正午の知らせだった。

いつかまた、ここに来ることがあるだろうか。







昭和新山～有珠山

天文台を後にして、ふたたび洞爺湖沿いの道に戻る。ここから昭和新山に向かうのだ。右の写真は南下する手前の場所だ。だが、ここから先の道が大変だった。下の写真の先から緩やかな上り坂が始まるのだが、これが長かった。

坂道の距離は1.5km弱なので歩いても20分程度のはずだが、いくらギアチェンジがあっても自転車をこぐのは大変だ。結局、坂道のほとんどは自転車を押して歩いた。歩くのは嫌いじゃないが、このときばかりは自転車が邪魔だった。





12時40分頃に昭和新山に到着。予定では12時前に到着する予定で、余裕で昼飯を食べ終えている時間だったが、洞爺湖めぐりに予想外の時間を取られてしまった。

この昭和新山から有珠山に向かうロープウェイに乗るのだが、坂道を歩き続けてヘトヘトになっていたの、まずは腹ごしらえだ。乗り場近くにあるレストランで地元ものらしい「あかうしカレー」を食べる。ドレッシングは無しだ。



さっさと食べてロープウェイ乗り場に行くと、時計がちょうど1時のチャイムを鳴らして、ちょっとした動きを見せていた（下の写真の左上）。タイミングがよかったと思ったのも束の間、このチャイムの鳴った時間がロープウェイの出発時間だった。やれやれ。

売店をみてまわったりしたもの、どくを買うものもなく、予定が遅れているのに次の出発まで無駄な時間を費やしてしまった。15分経ち、ようやく搭乗した。













有珠山山頂駅にある洞爺湖展望台からは昭和新山がよく見える。左側の奥には洞爺湖が広がっている。本当は外輪山遊歩道という道も歩くつもりだったが、往復2時間と書かれていたコースだ。



片道だけなら1時間だが今回は自転車があるので戻らないわけにはいかない。この後の予定にも影響するので、先を進むのは諦めて麓に戻った。



洞爺駅へ

ロープウェイでふもとまで戻る。ちなみに、ここは有料駐車場だったのだが、自転車を駐輪する場所がわからないので尋ねたら料金支払い所のそばに置いておけばよいということだった。料金は取られなかった。少し土産物屋も見てみたが、何を買うでもなく昭和新山を後にした。



往路で長々と歩いた上り坂も、帰りは楽なものだ。あっという間に洞爺湖沿いの道にたどり着いた。もっとも、そこから先は強い向かい風に苦しめられたのだが。



レンタサイクル店に自転車を返却し、向かいの観光案内所に行くと、ちょうど洞爺駅前行きのバスが来たところだった。慌ててロッカーから荷物を出して乗車する。

慌てて乗車したので忘れ物がないか心配だったが、忘れ物はなかった。しかし、予定よりも早い時間のバスであり、早いバスに乗れたからといって洞爺駅から早い列車に乗れるわけでもない。3時前に洞爺駅に着いたのに、1時間半以上もあるのに、温泉街以上に何も無い。

時間をつぶすために、海辺まで歩いてみた。前日の雨が嘘のように天気がよかったから、気持ちいい。これだけ時間があるなら、いっそ温泉街から洞爺駅まで歩くことだってできたらろう、とも思った。





本当に歩いて時間をつぶすだけで終わってしまったが、時間が近づいてきたので駅に戻る。
そしてスーパー北斗で函館に向かった。

函館山

前日が雨でなければ、つまり洞爺湖巡りを前日のうちにすませていれば、この日は朝から洞爺湖を離れて西側に向かうつもりだった。途中の長万部かどこかで観光したり、温泉に入るのもいいと思っていた。が、もう夕方なので、そんな余裕はない。まっすぐ函館まで向かって到着したのは6時半だ。

函館に着いた頃には、だいぶ暗くなっていた。翌日の夜は、帰りの高速バスに乗るため青森にいないといけなから、函館山の「百万ドルの夜景」を見られるのはこの日だけだ。観光案内所に立ち寄って、パンフレットを選びながら案内所の人にロープウェイの場所をたずねたら「ロープウェイは混雑するのでバスの方がいいですよ」と教えてもらった。平日なのに、乗るまで20分待ちだそうだ。

もちろんロープウェイからは眺めもいいのだろうが、今はその20分が惜しい。案内所の人アドバイスに従ってバスを選ぶことにした。そもそも函館山に登る道も、タクシーやバスに制限されていて、一般のクルマは入れないみたいだ。北海道新幹線が開通したらどうなるんだろう。







バスは、いかにも観光地らしくガイドさんが乗っていたのだが、日本人ではないようで日本語になまりがあった。ちゃんと名所の細かいところを案内しているな、と思ったら続いて英語で案内しはじめた。おお、リアルタイムで二か国語だ、と思ったら、さらに中国語で喋り始めた。録音じゃダメなのかという気もするが、きっと観光客との受け答えなどもできるのだろう。凄いものを見せてもらった。

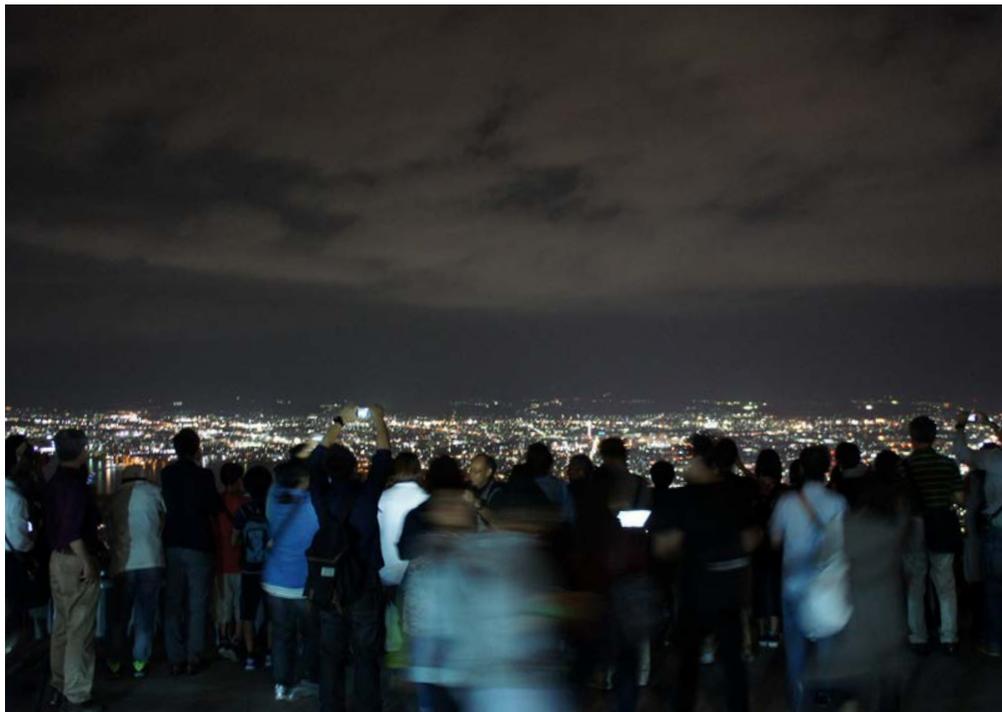
そうしている間に山頂に着いた。











山頂の展望台は、平日とは思えないような込みようだった。休日はどれほど込むのだろう。帰りはロープウェイでという思いは、行列を見て消し飛んだ。展望台には「25分~30分待ち」というアナウンスが流れていた。レストランもあるので食事をしようかとも思っていたが、こちらも当然込んでいた。もう一度バスで麓まで戻った。





宿泊の予約はしていないので、この日はネットカフェに泊まるつもりだったが函館駅近くにはない。バスはもう走っていないのか勝手が分からないので、市電で近くに向かった。ちょっと遠回りした気もするが、なんとかたどり着いた。禁煙席が空いていた。





ようやく落ち着いて、晩御飯を食べたり、シャワーを浴びたりして過ごす。翌日の天気は雨の予報だったのが気がかりだった。



5日目～函館めぐり

エアコンの音がうるさくて寝付けなかった割には5時半頃に目が覚めた。だが、天気予報を調べると午後まで雨が続くという予報になっており、ガッカリしていた。ネットでバス路線の情報を見つけて調べながら、時間をつぶすためにマンガを借りようと思って、ふと玄関から見えた外は雨が降っていなかった。これから降るとのことだろうか。これは今のうちに移動する方がよさそうだと慌ててチェックアウトして外に出た。

その瞬間を狙ったかのように雨が降ってきた。玄関から外に出たとき、乾いていた地面にポツポツと降り始めたのが嫌な感じと思ったのも束の間、1分も経たずに本格的に降ってきた。もともとバス停の位置が分かっていなかったので歩きながら調べるつもりだったが、とんでもないことになった。

コンビニに立ち寄ってバス停を尋ね、なんとか函館駅までたどり着いた。





いつものように荷物をコインロッカーにしまいこんだのだが、観光案内所の前を通ると、やたらと込んでいた。昨夜のうちに色々調べておいてよかった。どこで朝御飯を食べようと思ったが、めばしい選択肢がなく、コンビニでサンドイッチを買ってベンチで食べた。



当然、傘はコインロッカーにしまい込まずに持ち出したのだが、そうしているうちに雨が上がってきた。嫌がらせなのか？ そうなのか？ しかし、これで歩いてまわれそうだ。



赤レンガ倉庫

まず向かったのは赤レンガ倉庫だ。







もっとも要はショッピングモールなので、それほど興味がある場所ということではない。



緑の島

赤レンガ倉庫を離れて西に向かう。



緑の島という、ちょっとした公園のようなところがあったので、周囲を歩いてみることにした。1周で1kmちょっとというところだ。





緑の島から見た赤レンガ倉庫



昨夜、市街を眺めていた函館山を眺める

外国人墓地

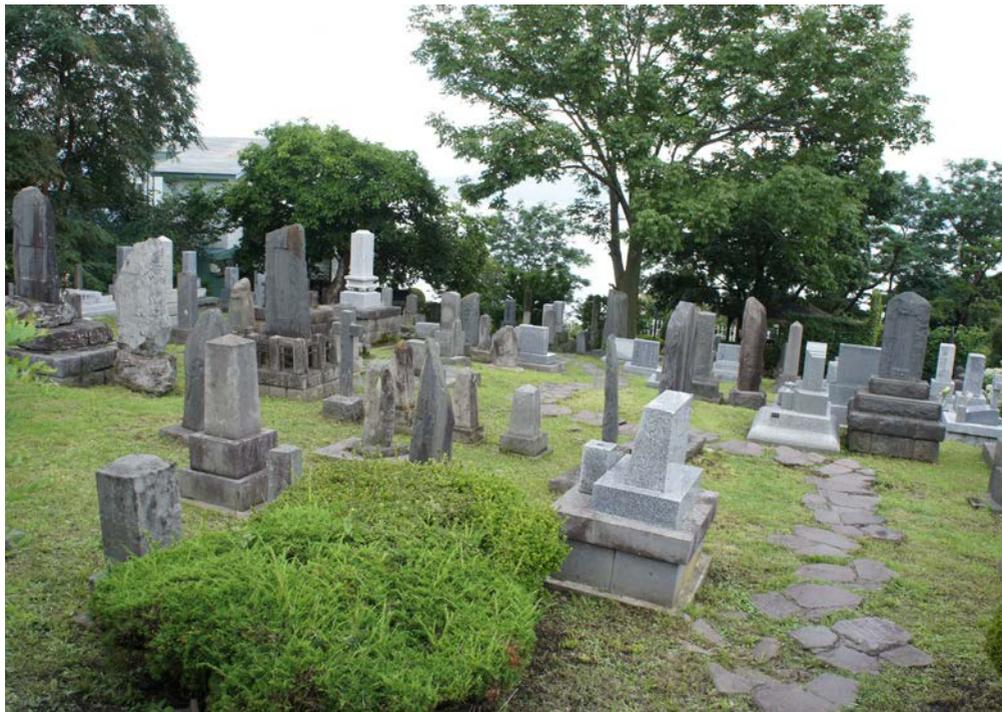
さらに歩いて外国人墓地に向かう。大観光地らしく、あちこちに看板が出ていてわかりやすい。



ここだけ関西弁、というわけではない







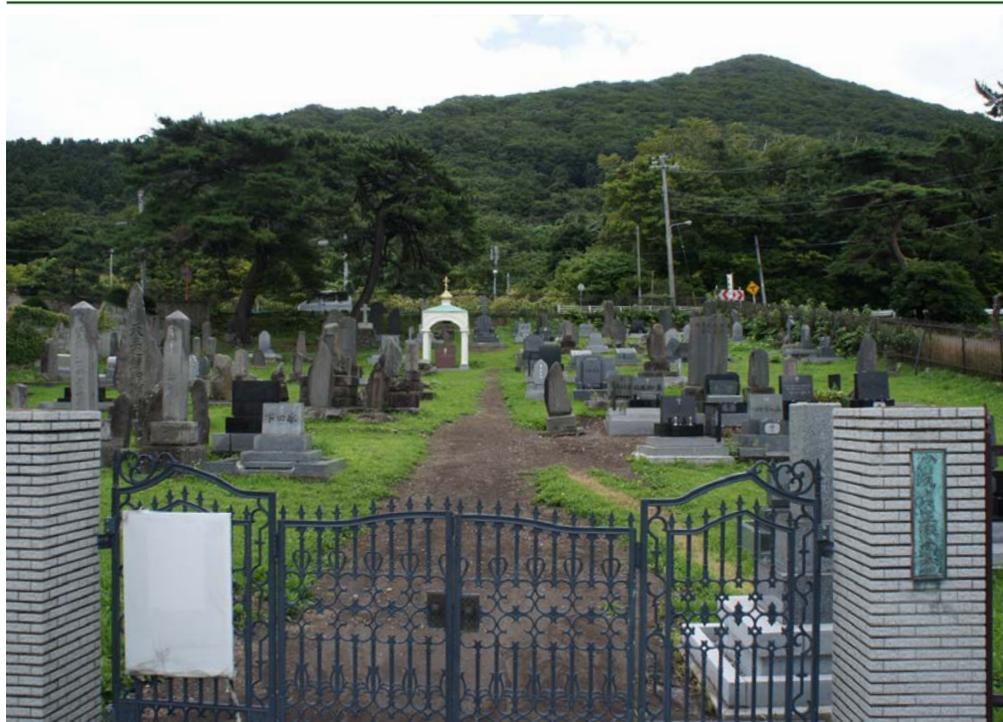
外国人墓地（プロテスタント墓地）



中国人墓地



函館キリスト教会共同墓地



ロシア人墓地

外国人墓地の先にある階段を下りて。海沿いの場所まで行ってみた。マップを見ると、この先に海水浴場があるのだ。



だが、歩いてきた先にあるのは「立ち入り禁止」の看板だった。ルートには出てるのに！





どこかで道を間違えた？

函館市街横断

しかたがないので戻ることにした。次は市街地の反対側にある立待岬に向かう。





「実行寺」という名前に惹かれた（もちろんruntimeとは関係ない）



京都でも見かけたキャッチコピー

元町公園

赤レンガ倉庫から外国人墓地を通過して元町にやってきた、といったら、人によっては横浜を思い浮かべるんじゃないだろうか。しかし、ここは函館だ。





誰が最弱かはわからない



函館の「はこ」は、元々この字

立待岬へ

函館は、けっこう坂の多い街だ。レンタサイクルもあり、当然のように電動アシスト付きのものが用意されているが、これだけ急な坂が続いてはすぐにバッテリーがなくなるか、押し歩きすることになっただろう。天気もよく歩くことにしてよかった。

元町公園から坂を下っていくと、すぐに北島三郎記念館があった。別にファンというわけではないが「はるばる函館まで来た」記念に入ってみようと思いつつも、すでに1時も近く、この先も長そうなので見送った。

右下は、たまたま見かけた本格的なテレビの撮影のようで、この後どこかの民家に入っていったのだが、結局、何の撮影だかわからなかった。地元の人に尋ねても、とくに有名な場所というわけではないようだった。



立待岬に近く来ると「石川啄木一族の墓」という場所があった。26歳という若さで病死した啄木は「死ぬときは函館で死ぬ」と手紙に書き残していたそうだ。

墓面（右中央の写真）に書かれているのは「東海の 小島の磯の 白砂に われ泣きぬれて 蟹とたはむる」という著名な短歌で、ここから見える大森浜が、まさにその場所だと、後で調べてわかった。

先には「与謝野寛・晶子の歌碑」（下の写真）があった。刻まれているのは「濱菊を郁雨が引きて根に添ふる 立待岬の岩かげの土」（寛）、「啄木の草稿岡田先生の顔も忘れじはこだてのこと」（晶子）という短歌だ。

右下の写真は、函館出身の俳人・中村舟路の句碑（左側）、歌人・庭田竹堂の歌碑（右側）だ。

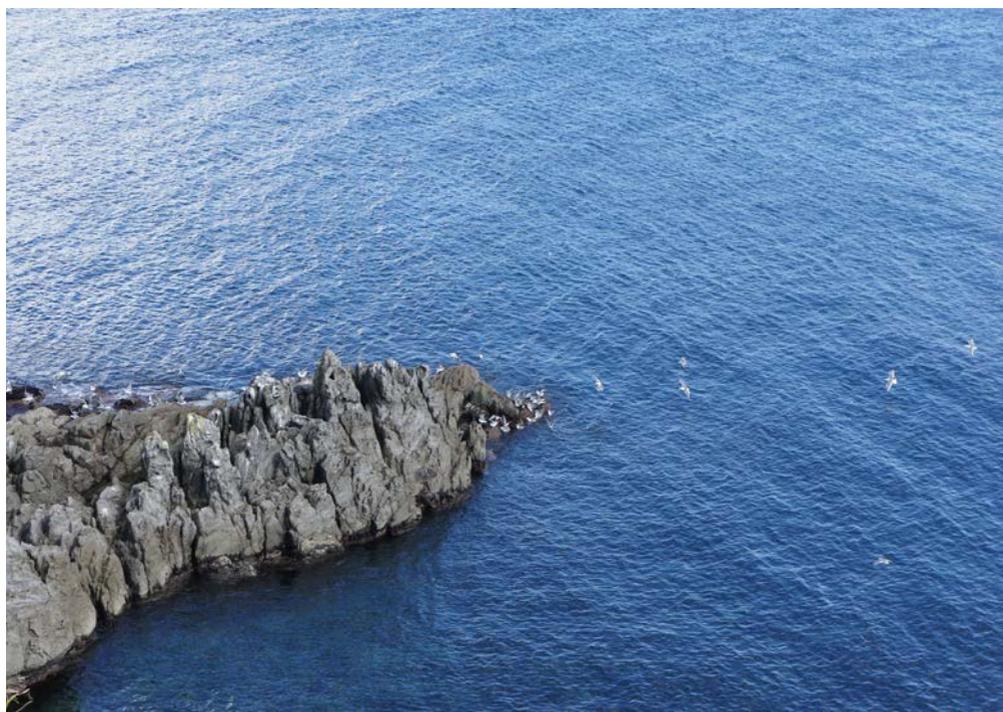
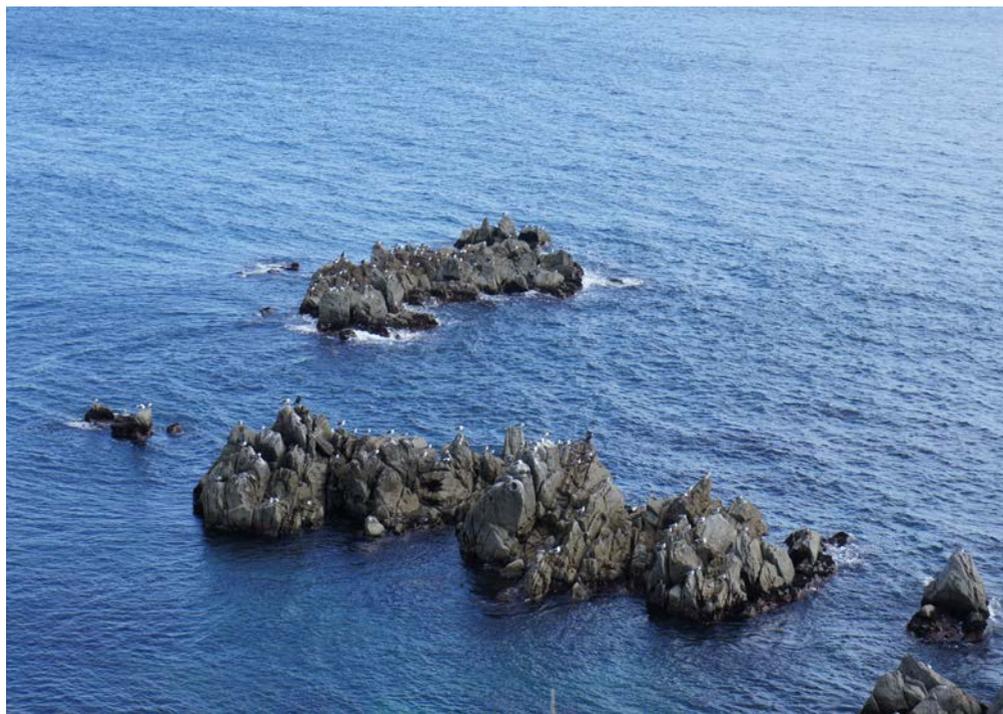


立待岬

外国人墓地を出てから約2時間。ようやく立待岬までやってきた。



もちろん、雨を覚悟したのに好天なのは、晴れのつもりで雨、よりもずっといい







ここに来る途中のトンカツ屋には大いに惹かれたのだが、昨日のカロリー録りすぎを反省して、コンビニでおにぎりなどを買ってきた。もう2時を過ぎていた。



うっかり硬い地面にカメラを落っこしてしまい焦ったが問題なさそうだった。今のデジカメを落っこしたのは2度目だ。おかげでモニタのガラスの角がヒビだらけになっている。

好天に恵まれたこともあるが、気持ちの良い場所で、込んでいるわけでもなく、大変気に入った。

函館公園

30分ほど立待岬にいた後、函館駅に戻る途中に函館公園に寄ってみた。



今上陛下御即位記念碑



函館公園の由来

函館駅

そしてふたたび函館駅に戻ってきた。

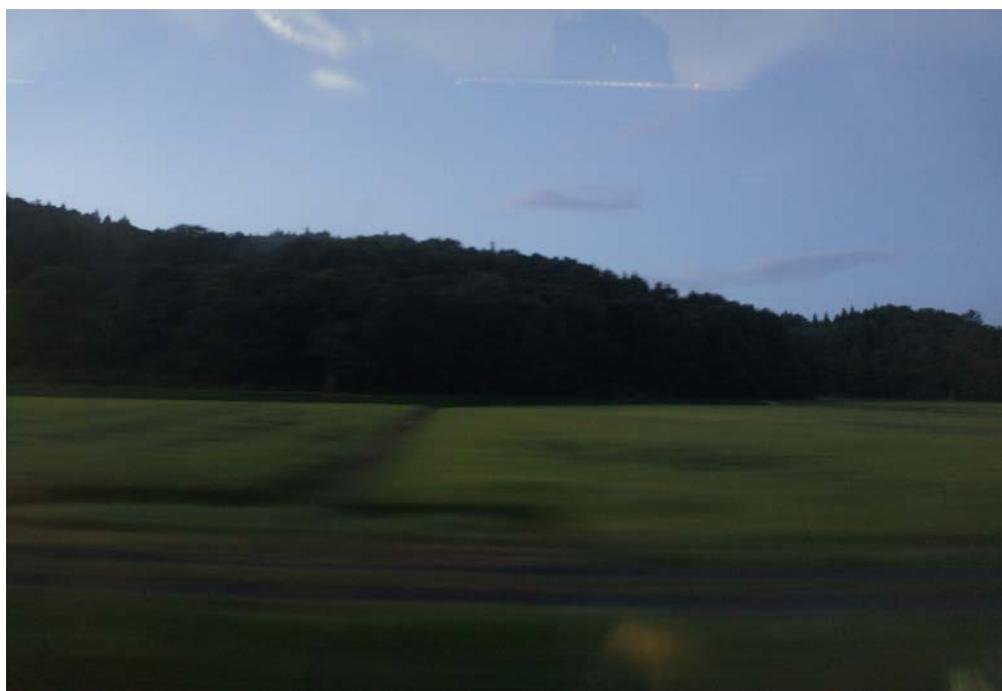


岩手おもてなし隊の方々

スーパー白鳥で青森へ

17時7分発のスーパー白鳥で青森に向かう。このときは知らなかったが、北海道新幹線が開業するために、青函トンネルは新幹線専用に変更されるそうだ。これは新幹線「以外」で青函トンネルを通る最後の機会になりそうだ。





トンネルを抜けた頃には、だいぶ暗くなっていた

青森

2時間ほどで青森駅に到着。夜行バスが出発するまでは2時間もない。せめて観光案内所に立ち寄ってみたかったが、ちょうど閉まった後だった。





洞爺から函館に立ち寄らず青森に直行してれば、自転車を借りて市内を回ることもできただろう。当初は、そのつもりだったのだ。しかし、もうそんな時間ではない。せいぜい余裕をもって晩御飯が食べられる、という程度だ。

日帰り温泉に行ってみるかは迷ったけれど、バスに間に合わなくなると大変なので見送った。

晩御飯は、もともと当てにしていたところもなかったので青森っぽいものも思いつかず、こんなところで食べてしまった。どうせカロリー制限を受けている身だし、食べ物への思いは深くない。

余った時間は夕食のカロリー消費と、この日の歩数を増やすために、多くの店が閉まった後の商店街を歩き回っていた。相当早足だったので、おそらく分速100mを超えていたと思う。

帰京

夜行バスは9時出発だ。たまたま最前列の中央という、なかなかいい場所だった。もっとも走行中はカーテンが閉まる。しかし、本来4列シートのバスだったはずなので、予定よりも利用者が少なかったのかもしれない……と思ったら、それは前方だけで途中から4列になっていた。





弘前でも乗客を乗せ、いくつかのサービスエリアで休みながら帰京。いつもどおり、深い眠りにつくことはなく、サービスエリアで停まるたびに起きていた。新宿に到着したのは午前6時前で、朝御飯にはカレーを食べた。たまたまホリデー快速の時間だったので、それに乗車して帰宅。

こうして北海道旅行は終わった。自転車に乗っている間の「振動」による歩数はアテにならないことを無視すれば、6日間の合計は18万歩を超えた。

高津カリノ作品の聖地巡礼にはじまり、日本最北端の宗谷岬、「天体のメソッド」の洞爺湖巡礼、函館の百万ドルの夜景など、豪雨に見舞われたという点を考慮しても、いい旅だった。とくに糖尿病が判明して一度は見送らざるを得ないと覚悟した旅だっただけに感慨深い。

いつか改めて、とも思うが北海道新幹線が開業した後は、特急で青函トンネルを通ることもできなくなる。北陸新幹線の開業で青春18きっぷが使えなくなった北陸線、信越線もあり、ちょっと残念な今日この頃である。



北海道旅行 (2015)

2015年8月31日～ 札幌～稚内～洞爺湖～函館

北海道旅行 (2015)

2015年8月31日～ 札幌～稚内～洞爺湖～函館

© 2015 Motohisa Ohno <http://www.mohno.com/>

※本文では以下のサイトからキービジュアルなどを引用しています。

「結城友菜は勇者である」<http://yuyuyu.tv/>

「天体のメソッド」<http://sora-no-method.jp/>

「サーバント×サービス」<http://www.servantservice.org/>

「WORKING!!」<http://www.wagnaria.com/>